

♥ 公益社団法人Knots(結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。

♥ Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

## 人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生

今年の5月半ばに愛犬アルマが口腔内メラノーマという悪性腫瘍になってしまいました。

獣医師の私にとってもこれはもう：おしまいだと、一瞬目の前が暗くなるような予後の悪い腫瘍です。

そのような中、日本小動物医療センター第一腫瘍科(免疫療法科)の水野拓也先生の研究治験に参加をさせていただき、本来極短い余命のところ、半年以上

転移もなく、もりもり食べる姿は家族にとって本当に心安まる光景です。さらに先日17歳を迎えました。

獣医学は日々進んでいるにもかかわらず、日本では犬と暮らす人の数は激減しており、国内に犬がいなくなると危惧されています。

人の社会の少子高齢化には拍車がかかる一方で、この先の数十年は特に高齢者の健康が日本にとって重要課題になるでしょう。

つい先日Knotsさんの大会でも御講演された谷口優先生(国立環境研究所主任研究員)の調査研究では犬と暮らす人の認知症発症率、介

護保険料は約半減、脳年齢は約15歳も若いという貴重な日本国内の調査結果が発表されています。(著者：谷口優

先生『なぜ犬と暮らす人は長生きなのか』/株式会社エクスマレッジ)

一見バラバラな事のようにはみえますが、諸問題と共に

国内の優良ブリーダーさんをもっと大切にす

る制度、伴侶動物との暮らしがハードルの高いものではない形で高齢者でも伴侶動物との暮らしが安心して実現出来る

考えるとして、すべては一つに見えてくるように思えます。

何を護り、どこを変えて行くのかを間違えないように見極めていくのが、人類の歴史の先端を今生きる私たちに課せられた使命のように感じます。



(公社)日本動物病院協会CAP活動(人と動物のふれあい活動)の一場面 撮影・フォトジャーナリスト大塚敦子氏



愛犬アルマちゃん



柴内晶子先生のご友人 砂田貞枝さんとびんたちゃん

社会的なネットワークの構築、これらは喫緊の解決すべき問題です。「健康な経験豊かな高齢者が若者を支えられる社会」に修正していかないとけない時代になりそうです。

また先日、世界自然遺産に指定された西表島在住の友人から、この島では先祖からの伝承を何より大切に思い、つないで

外部に発展していくことや変化は、自然の摂理の一つではありませんが、変化に富んだ流れの中でどのように一つの姿勢を護り貫いていくのかもこれからの世の中では大切に思います。

西表島の海にかかる二重の虹 柴内晶子先生撮影

毎日暮らしの中で、少しでも意識しながら生活する事が、少しずつでも世の中を変えていく原動力へと変わって行く、大河の中の一滴になるのではないかと

何万年も続いている伴侶動物との暮らしは人間本来の心身の健全性を保つ大切な要素の一つではないかと改めて感じています。

時代は One Welfare (人と動物と地球環境の健全と福祉は一つ)を求めています。